

番号	あなたは？	講演(竹中万季さん)をお聞きになったの感想や意見などをお書きください。	学生座談会や全体の意見交換をお聞きになったの感想や意見などをお書きください。	本日の研究会の運営について、お気づきのこと、改善点などありましたらお書きください。	この研究会は今回が最後です。今後どのような企画があったらいいと思いますか？
1	学部2年生	竹中さんは人に発しにくい悩みや誰しもが抱えているモヤモヤとした感情に手を差し伸べるのが上手な人だなと思いました。	自身で能動的に行動した経験が今の自分を作っているとおっしゃっていたのが印象的でした。自分も能動的に活動できるように頑張りたいなと思いました。	特にありません。	2回しか参加できなかったのですが、良い取り組みだったなと感じました。
2	学部3年生	日々の気付きを現在のお仕事に活かしてらっしゃる竹中さんのお話を伺って、小さなことでも自分の感性を大事にすることを心がけます。ありがとうございました。	非常に雰囲気の良い意見交換の場でした。	より多くの一般の大学生にも届けばよいと思います。(生協に関わる大学生の方が多かった印象なので)	定期的にこのような参加者も主体的に発言できる企画があれば良いと思います。
3	学部3年生	貴重なお話をありがとうございました。たくさん共感する部分もありましたし、ここは自分と違うな、と考えさせられることもありました。自分の悩みや好きな気持ちをアウトプットするだけでも、社会的なことにつながるきっかけになるかもしれない、というのが印象に残りました。自分が普段悩みとかを話していると、気分が沈むことが多いのですが、共感してくれる人がきつとたくさんいるんだろうな、と思うと少し明るくなれる気がしました。	普段は気持ちを表に出すことが難しくても、映画や本など、作品を通して気持ちを通じさせることができる、というのにとでも共感しました。これから色々な作品に触れていきたいと思いました。	貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。竹中さんに直接感想をお伝えすることができて、とても嬉しかったです。	今回参加して、行動に移そう！とか何かしよう！とかいうのではなくて、心の中について考えてみる、誰かに共感するっていう時間がすごく大事だなと思いましたし、これからもそういう機会が定期的にあったらいいなと思いました。
4	学部4年生以上(既卒含む)	「心の不安や対人関係の難しさをなかったことにせず、だからこそ考えられることがある」という一言が印象に残りました。	質問させていただいた保健室登校、集団へのなじめなどに対して、「それでもいい」と寄り添ってあげられることがまずは必要だと改めて感じました。		学生がなぜ学んでいるのか、建前抜きに話し合える場があると面白いと思いました
5	学部4年生以上(既卒含む)	個人的なことでも対話をすることによってそれが社会の中でどこにあるのかわかるかもしれないというお話が気になりました。個人的な出来事であっても社会の中にある自分の出来事であるので、対話の中で自分を見つけないと思いました。	座談会の中でさまざまな共感が生まれたように感じました。このような講演を聞いたことで共感して自分の考えを言って共感が生まれ、対話が生まれるのはまさに、竹中さんが質問への返答としてお話していた、直接話せないことでも媒介するものがきっかけとしてあれば話せるということなのかと思いました。		二年間委員として研究会に参加させていただき本当にありがとうございました。この研究会を通じて「大学生生活」というものについてさまざまな視点を持ってたくさん考えることができました。一年目に実施していた、コロナ禍の学生アンケートをもとに教員や学生の実感を話していたのは数値的なものを分析する意義だけでなく、個別の学生の声を取り上げて深掘りをするという意味で意義があるものだと思うので、今後もなんらかの形で、学生の生活についてさまざまな属性の人で話し合う機会があるといいなと思いました。
6	大学院生	個人的な悩みと社会の問題を切り離さずに考えることの大切さを学んだ。「普通」を疑い(個人)、仲間と共に行動したことが、多くの人を助ける(社会問題の解決)になると感じた。お話を聞くことができて大変光栄でした。	竹中さんと学生の意見交換を通して、新たに気づくことがあったので非常に良かった。	特にございません。	大学生の学生生活の共有会。今回のような「社会人の特別ゲスト」を招くのも良いが、「今挑戦している学生複数人」をゲストとし、現在行なっているプロセスについて話す&意見交換ができると面白いのではないかとと思う。もちろん、社会人のゲスト企画がまたあれば参加したい。
7	大学職員	型にこだわらず、その時々でご自身でできることをされていることが伝わり、もっと話を聞きたくなるお話でした。ありがとうございました。	学生さん各々の自分ごとで発せられた言葉が非常に良かったです。		今年度と同様に、学生の形にできない悩みや感情を講演を通じて共有する企画は重要と思います。
8	大学生協役職員	100年前の伊藤野枝は普通と闘うことをしていましたが、竹中さんは自由にしなやかに普通に異議をとなえることをされていると思いました。			
9	大学生協役職員	地方の若い女性は成人すると地方を離れる人が多いと言われていいます。都会での暮らしは地方とは異なり魅力があるのだろうと想像します。地方の課題(主に人口減少ですが)についてどのような考えがあるのか伺ってみたいかったです。			
10	大学生協役職員	竹中さんの柔らかなお話の仕方も含めて、学生がとても親近感を持ち、興味深く聞いていたように思います。ありがとうございました。	学生が共感を求めていることが、ありありとわかったような感じがです。生協の学生委員は、なんとかしたいと思い集まった方が多いせいもあるのかもしれませんが、自分の思いや違和感を学生同士の対話の機会を作って、違うステージにつなげていってくれたらいいなと思います。	お疲れ様でした。	
11	大学生協役職員	全ての人が発信できる世界になった世の中ですが、発信したいが発信できない人、発信してるが届かない人がたくさんいると思います(全員が発信できるようになったからこそ)。少しでもおおくのひとに傾聴したいと思えました。	だれかと対話する、自分の想いを聞いてもらう共感してもらうという経験は何物にも代えがたい経験だと思います。すべて肯定されたいわけでもなく、共感できることが人間としても大切だと改めて実感しました。	特になし。	研究会という形でもなくていいので、来年度も実施してほしいです。より多くの人(個人的には特に学生に)に学生生活、その後の人生を考えるためにとても今後の糧になるものだと思います。
12	大学生協役職員	自分自身を振り返った時に、人とかかわり方に苦労したり、逆に教室で1人であることが苦ではない人間だったので、竹中さんの学生時代の話には共感することはできなかった。しかし、参加されている学生さんたちがそれぞれ、人との関係づくりでの悩みや、教室に行きづらいことなど共感している部分話を話しているのを聞いて、そういう感じ方をするんだと非常に勉強になった。	日本人特有なんでしょうか、学生さんたちが言われている不安やつらいこと・学校などでの嫌なことの原因にあるのは「〇〇でなければならない」という決めつけ(誰かというわけではない社会全体の雰囲気)、同じく「みんな一緒」という同調圧力(これも誰かというわけではない社会の雰囲気になるのかもしれない)、「・・・だったらどうしよう」というあまり具体性のない不安症などの原因が、少しでも究明できると学生さんたちの将来に向けての考え方や取り組み方に光が見えるのかなと感じた。先生のまとめのおかげで、そういった雰囲気の中で、竹中さんやほかの講師の方々は、「人と違ってもいい」「やってみよう」ということが見つけられて、今現在取組中なのだと良く分かった。	特にありません。	「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」ですので、まずは足元の、大学生協学生委員会のメンバーの大学卒業後の進路や状況を調べ、聞き取り、そして見守り、その情報の中から大学生協にもっとできることを考えるのはいかがでしょうか。